

平和集会（校長のあいさつ）

1945年8月9日（木）午前11時02分 長崎市上空に1つの原子爆弾が投下され、約7万人（当時の人口28%）の方が亡くなりました。3日前の8月6日（月）午前8時15分 広島市上空に投下され、14万人（当時の人口33%）が亡くなりました。

原子爆弾の恐ろしさは、爆弾としてだけでなく、放射能の兵器として、白血病、がんなどの後遺症という形で、今もなお苦しんでいらっしゃる方もおられます。

今の話は、皆さん方にとっては、周知のうえでしょう。

例年のように1年生での被爆遺構巡りや総合的な学習の時間での被爆講話、調べ学習などで学年ごとの取組に加え、今年度は、原爆殉難教え子と教師の慰霊式では皆さんにつくって頂いた千羽鶴を代表の方が先日奉献しました。今現在行われている平和祈念式典にも代表の方が参加をしています。また、10月に予定されている世界平和祈念市民大行進では、本校吹奏楽部が参加することになっています。

これだけ学習し続ければ、……。知っていて当然の事でしょう。

では、今日の平和集会は、何の目的で行われるのでしょうか？戦後80周年、日本人の平均寿命84歳を考えると、年々被爆者の方が少なくなり、被爆という惨劇が体験から伝承ということになります。一番恐ろしいことは、それが、伝承から歴史となり、最後には、多くの方が忘れ去り、惨劇が再度起きる事です。皆さん方の役目は、決して忘れず、次の世代に正確に伝承する事です。今日は、その正確性の確認をし、伝承役という自覚をもっていただければと思います。

本日も猛暑ですが、しっかりと集会に参加し、決意を新たにしてください。

令和7年8月9日

長崎市立滑石中学校 校長 神尾進二